

第1回 浜田・三隅道路景観検討委員会

道路景観検討基本条件の整理

平成16年7月6日

目次

	頁
1. 浜田・三隅道路の事業概要	1
2. 地域特性のまとめ	3
3. 自然特性のまとめ	6
4. 環境影響評価の結果	8
5. 景観特性の整理	9
6. 道路景観基本方針	19

1. 浜田・三隅道路の事業概要

■対象路線の歴史的位置づけ

対象地域周辺は古代より山陰道沿いに発展し、日本国内のみならず、中国・朝鮮半島との交易があり、山陰道は住民にとって生活・産業・物流の場として活用を図られてきた。



出典：日本の街道

古 代（～平安時代） [山陰道の誕生]

古代の大和朝廷時代、地方の統治は国造(くにのみやつこ)に任されていたが、7～8世紀には中央集権国家の下に律令制が敷かれ、都と地方は連絡を密にする必要があったため、全国が「五畿七道」(畿内と7つのブロック)に分けられた。京を中心とした7つの道は、中央と地方の交通路整備を目的として設けられた。地方の交通として、山陽道、東海道、東山道、南海道、西海道、山陰道、北陸道の「七道」が整備された。出雲・隠岐・石見の三国は、丹波・丹後・但馬・因幡・伯耆の各国とともに「山陰道」に属し、地域間の新しい文化や物流の往来が始まっている。古代においては官道として、また出雲大社の参詣道として利用されていたと考えられている。

中 世（鎌倉時代～室町時代） [航路と陸路の交易ルート]

中世になると荘園・公領制が始まり、山陰地方の各地から京まで直接年貢を納めるため、山陰道沿いの各港を積み出し拠点として、日本海を経て若狭小浜を経由した航路～陸路を組み合わせた輸送経路が主流となる。山陰道は、こうした各々の港を繋ぐ航路と陸路を結ぶ道として発展していく。浜田や三隅の入江は波が穏やかで天然の良港として繁栄し、漁業のみならず中国や朝鮮半島との交易拠点としても繁栄していた。また、津和野に吉見氏が城を築き、周防山口に大内氏が本拠地を構えたことにより、京から松江・太田・江津・浜田・三隅を経た山陰道が津和野・長門・小郡の山陽道まで至り、現在に継承されている山陰道の基礎が確立した。

近 世（安土・桃山時代～江戸時代） [地場産業の発展を担う道]

近世になると、北陸諸藩の蔵米を下関廻り(西廻り)で大坂へ輸送したことにより西廻航路が確立され、近江商人の蝦夷進出を契機に北前船が登場、廻船業者の販路拡大により寄港地であった浜田や三隅を含めた各地で地場産業の発展が起こった。江戸時代には、各地の大名が出雲大社に詣でる際に山陰道や浜田の湊を利用していた記録が残っている。また、特に警備を必要とする街道ではなかったためか山陰道沿いには番所が少なく、僧侶や歌人といった教育文化人が多く旅した記録も残っている。16世紀後半には、大森にある石見銀山の開発が本格的に始まり、江戸時代慶長～寛永にかけて最盛期となり、西廻航路で長崎や江戸に運ばれ、周辺の町は活況を呈していた。

近 代（明治時代～） [車社会への対応]

明治9年(1876年)に、道路を国道、県道、里道の三種に分類し、これをさらに一等、二等、三等の等級に分け、国道の名称が正式に定められた。その後、国道の等級は廃止されたが、明治18年(1885年)に国道を1号から44号の44路線と決定し、国道表が初めて一般に公表された。昭和27年(1952年)6月10日の道路法改正によってほぼ現在の国道、県道などの区間に変更され、古代から継承されてきた山陰道は、ほぼ路線が大きく変わることなく一般国道9号として京都市から下関市まで決められ現在に至る。現在、日本海国土軸の形成基盤として山陰自動車道の整備が進められている。

■一般国道9号の概要

一般国道9号は京都市を起点とし、日本海沿岸を西走し、下関市に至る総延長671.3km、実延長626.9kmの幹線道路である。対象路線を管轄する浜田河川国道事務所管内の一般国道9号は、江津市黒松から山口県阿武郡阿東町大字徳佐までの119.4kmで、この間、浜田、益田の2市と三隅、日原、津和野の3町を経由している。

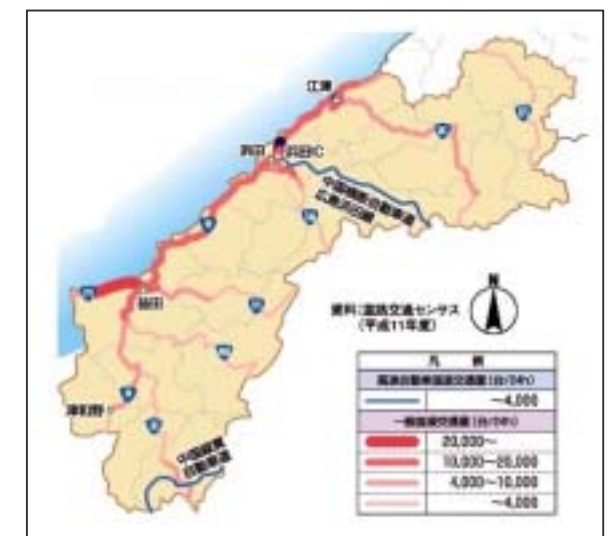
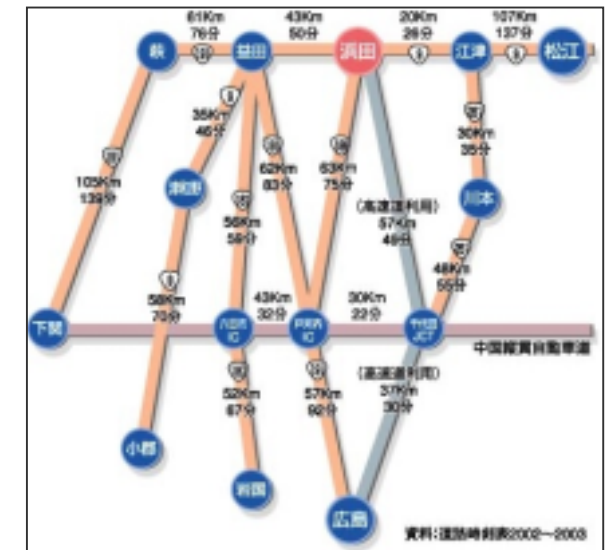
島根県は東西が約200kmあるにもかかわらず、幹線道路は一般国道9号のみとなっており、松江市から津和野町までの移動には約4時間かかる。災害や事故で一般国道9号が通行できなくなると東西の交通は完全に寸断され、住民生活に大きな影響を及ぼすこととなる。昭和58年7月の豪雨災害では一般国道9号の146地点が被災し、一般車両が18日間も通行止めになった経緯がある。そのため、代替道路の早急な整備の必要性が求められている。

H11道路交通センサス
平日24時間交通量

路線名	地点	交通量(台)
一般国道9号	浜田市久代町	17,433
一般国道9号	浜田市下府町	29,878
一般国道9号(浜田道路)	浜田市高佐町	19,802
一般国道9号(浜田道路)	浜田市竹迫町	17,207
一般国道9号	浜田市周布町	15,474
一般国道9号	浜田市西村町折居1069-3	12,997
一般国道9号	那賀郡三隅町小野	13,449
一般国道9号	那賀郡三隅町岡見	11,366



熱田町地内での早朝渋滞状況



■道路整備の状況

島根県の高規格道路は計画延長285kmのうち38%の108km(平成13年4月1日現在)が開通しており、全国平均の74%と比較して低い水準にある。国道、県道でも県内の道路整備率(平成12年)は44.3%で、全国平均の70.9%を大きく下回り、全国43位と整備が遅れている状況にある。





■一般国道9号浜田三隅道路の概要

山陰地方において、東西間、隣接県、山陽・四国との時間距離の短縮や、高速道路インターチェンジ等の交通拠点へのアクセス強化を図ることにより、地域の文化・学術・経済等の広域的な連携・交通を推進することが望まれており、山陰自動車道(島根県内L=約190km 全区間L=約380km)の整備促進を図っている。

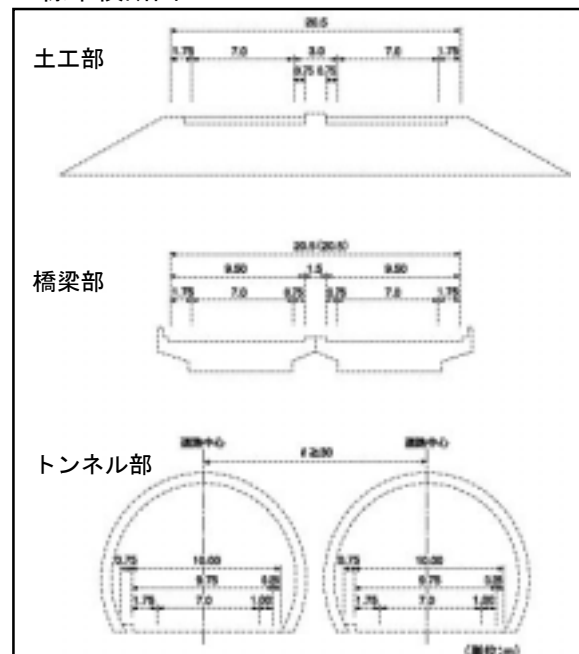
こうした状況の中、対象路線が位置する地域には、一般国道9号が唯一の主要幹線道路となっており、道路構造不適合箇所(最小平面曲線=70m 最大縦断曲線=7.4%)、防災対策必要箇所を抱える隘路区間となっている。

このため、当路線を整備することにより、災害緊急時における代替ルートの確保が図られると共に、観光拠点へのアクセス向上、物流の効率化による各種開発計画の促進、高度医療機関の利用圏域拡大等の生活基盤の充実、および広域交通の拡大に寄与することから、早期整備が望まれている。

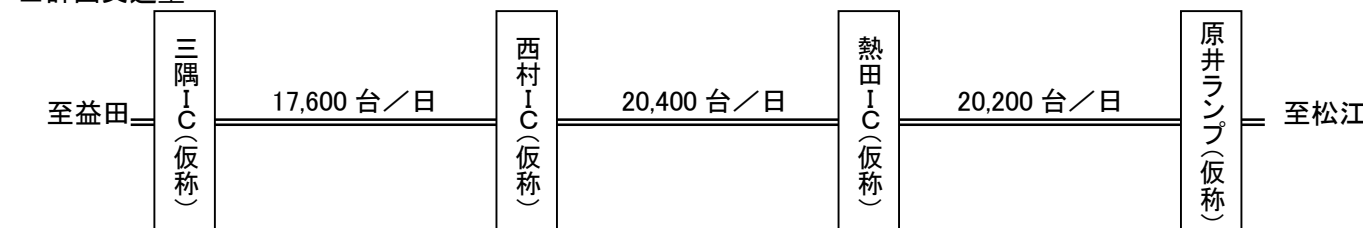
■計画概要

起点	浜田市原井町
終点	那珂郡三隅町
延長	L=約14.5km
道路種別	自動車専用道路
道路規格基準	第1種第2級
幅員構成	W=20.5m(1.75-7.00-3.00-7.00-1.75)
目的	安全で快適な交通の確保 山陰自動車道としての当面活用
整備効果	一般国道9号浜田道路と連結し浜田地方生活圏の骨格を形成
平成15年度事業内容	都市計画決定の手続き、調査設計

■標準横断面図



■計画交通量



■道路構造別延長

道路構造の種類	種類の内容	延長
土工部	盛土	道路が盛土の区間
	切土	道路が切土の区間
	盛土または切土	道路が短区間の盛土・切土で混在する区間
橋梁部	橋もしくは高架	道路が橋または高架の区間
トンネル部	トンネル	道路が地下にある区間

■IC(インターチェンジ)等区域の位置

連結位置	IC名称(仮称)	連結施設
浜田市原井町	原井ランプ	一般国道9号(1.4.1長沢原井町線)
浜田市熱田町	熱田IC	主要地方道浜田美都線(3.6.23熱田インター線) 市道ゲートウェイロード線(3.6.24ゲートウェイロード線)
浜田市西村町	西村IC	一般国道9号
三隅町森溝上	三隅IC	一般国道9号

■その他

対象区間内には休憩所(パーキングエリア、サービスエリア)及び換気塔の設置は予定していない。

2. 地域特性のまとめ

浜田市 市の花／つじ 市の木／松 市の魚／かれい

浜田市は、島根県西部に位置し、山陰・山陽を結ぶ交通の要衝として栄えるとともに、県西部における中核都市として発展している。天然の良港を持ち、中世には約 50 回の朝鮮貿易を行うなど、重要な港を有するまちに発展。近世は城下町として栄えた。基幹産業は水産業であるが、近年水揚げ金額の伸び悩みや後継者不足などにより水産業を取り巻く環境は厳しいものとなっている。商業においては、小売売場面積・年間販売額ともに増大しているが、商店数・従業員数の減少が近年顕著にみられる。現在、浜田港と中国横断道をはじめとした道路網の整備により、北東アジア地域から日本海を通じて広島・四国へとつながる縦の連携軸と、日本海沿岸を東西へとつなぐ横の連携軸の強化を目指している。浜田市としては、結節機能を生かし国内外への情報発信・交流促進を図っている。

■人口(人):国勢調査

	人口	若年者比率	高齢者比率	世帯数
H2	49,135	15.8%	16.7%	16,587
H7	48,515	16.0%	19.9%	17,441
H12	47,187	15.9%	23.4%	18,155

■地目別面積(km²):H13 島根県統計書

	面積	割合
総面積	162.59	100.0%
水田・畑地	15.2	9.3%
山林	93.6	57.6%
可住地面積	22.4	13.8%

■気象(H13 浜田観測所)

年間平均気温	15.6℃
最高気温	33.4℃
最低気温	-3.6℃
年間降水量	1783.0mm

■主要河川(km, km²) ※対象区域のみ

河川	河川延長	流域面積
二級河川青川水系青川川	1.16	2.00
二級河川周布川水系内田川	2.21	-
二級河川周布川水系周布川	45.83	91.66

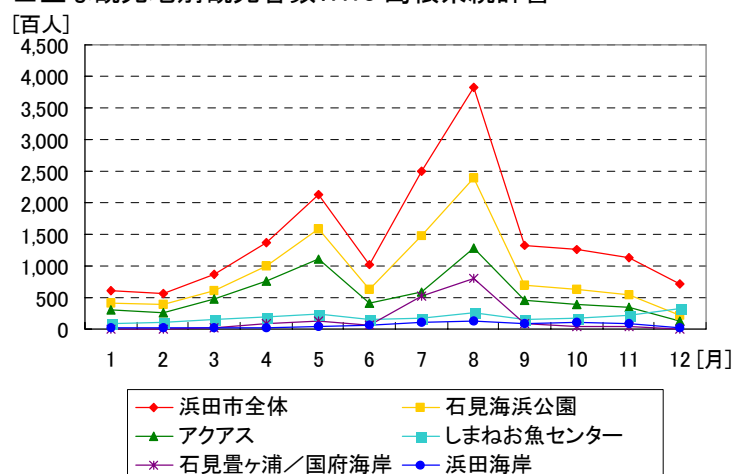
■地形および地質

対象区間において、冠山山地と呼ばれる小起伏山地が大部分を占め、その周辺には大起伏丘陵地が分布している。また、主要河川下流部沿いには、扇状地性低地および三角州性低地が分布している。また、学術上または希少性の観点から重要な地形として「溶岩台地・鉱物露頭(こうぶつろうとう)」が存在している。

■就業者数(人):H12 国勢調査

	人数	割合
全就業者数	24,233	100.0%
第1次産業就業者数	1,340	5.5%
第2次産業就業者数	6,443	26.6%
第3次産業就業者数	16,340	67.4%

■主な観光地別観光客数:H13 島根県統計書



■農家、事務所、商店数:H13 島根県統計書

農家数	1083戸
事務所数	130所
商店数	1,046店

■総生産額(百万円):H13 島根県統計書

農業	962
工業	49,888
商業	158,824

■観光・レクリエーション施設

県立石見海浜公園／アクアス／石見畳ヶ浦
浜田城跡／しまねお魚センター／浜田海岸
折居海岸／三階山森林公園 等

■特産品

どんちっちカレー入カレー／ふぐ味酥干し
神楽面／長浜人形／石見焼／カレー・甘鯛一夜干し
天ぷら・かまぼこ 等

■イベント

浜っ子まつり(4・8月)、第23回全国豊かな海づくり大会・健康福祉フェスティバル(10月)日本石見神楽大会(11月)

■第4次浜田市総合振興計画

[将来の都市像]

～海と文化の交差点・共創のまち浜田～

海外交流拠点としての「海」と島根県立大学を地域に開かれた知的財産としての「大学」という2つの貴重な財産と「交流結節点」という地域の特性を最大限に活用を図り、北東アジア地域をはじめ諸外国や国内他地域との人、もの、情報などの活発な交流を促進する。

[長期展望プロジェクト]

1) 地域づくりプロジェクト

県立大学を核としたまちづくり、市民主導のまちづくりと地域の国際化、高度情報化、若者に魅力あるまちづくりに努める。

2) 人づくりプロジェクト

歴史文化の活用、教育文化施設の整備などにより文化の薫るまちづくりを推進する。また、生涯学習の推進と国際的視野をもった人材育成に努める。

3) 安心づくりプロジェクト

少子・高齢社会に対応した福祉、保健、医療、子育て、教育などの住民に身近な施策の充実に努める。

4) 環境づくりプロジェクト

人と自然環境の共生を図り、循環型社会の構築をめざします。また、快適な生活環境の整備と景観に配慮した美しいまちづくりに努める。

5) 産業づくりプロジェクト

水産業・農林業・商工業・観光などの地場産業の育成と商店街の活性化に努める。また、新産業の創出、企業誘致などにより就業の場の拡大を図り、若者の定住化に努める。

6) 都市づくりプロジェクト

快適で住みよいまちづくりを推進する。また、環日本海の交流拠点浜田港や山陰自動車道などのインフラの整備に努める。

■[新・浜田八景] 浜田市では、市内で特に自慢したい風景を選び「浜田八景」と名付けている。

石見畳ヶ浦/石見海浜公園/浜田海岸/浜田城跡/鏡山/浜田漁港と浜田商港/大麻山と折居海岸/三階山森林公園



石見畳ヶ浦



石見海浜公園



浜田海岸



浜田城跡



浜田漁港と浜田商港



大麻山から見た折居海岸

三隅町 町の花／つつじ 町の木／梅

昭和30年に現在の三隅町が誕生。島根県西部に位置し、北側に日本海、東側は浜田市と弥栄村、南側は美都町、西側は益田市にそれぞれ境を接している。総面積の約60%は山林で、北に標高599mの最高峰、大麻山がある。また、町の中央を三隅川が北流し、日本海へ注いでいる。

■人口(人):国勢調査

	人口	若年者比率	高齢者比率	世帯数
H2	8,901	11.5%	22.8%	2,855
H7	8,881	12.3%	25.8%	3,324
H12	8,073	14.1%	31.0%	3,028

■地目別面積(km²):H13 島根県統計書

	面積	比率
総面積	128.5	100.0%
水田・畑地	10.0	7.8%
山林	76.8	59.8%
可住地面積	11.7	9.1%

■気象(H13 三隅観測所)

年間平均気温	-
最高気温	-
最低気温	-
年間降水量	1838.0mm

■主要河川(km, km²) ※対象区域のみ

河川	河川延長	流域面積
二級河川三隅川水系石田川	1.63	4.65

■主要山岳:三隅町 HP

名称	標高	備考
大麻山	599	非火山性孤峰

大麻山山頂近くには大麻山神社があり、大麻比古命(おおあさひこのかみ)と猿田彦命(さるとひこのかみ)が祀られており頂上には高さ15mの展望台がある。また、山頂まで中国自然歩道が整備されている。

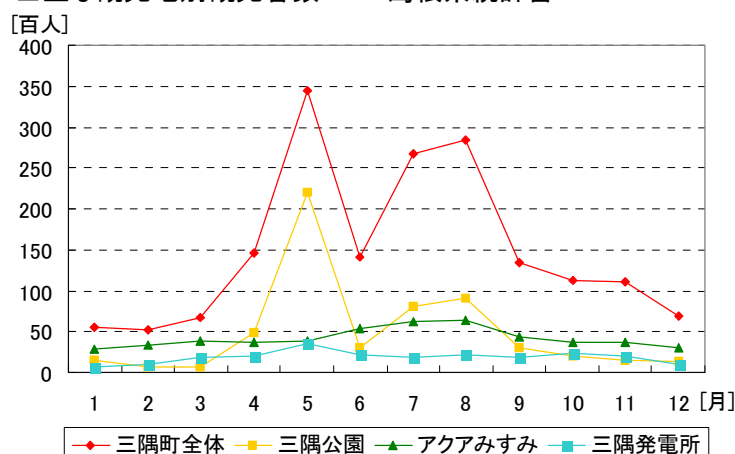
■地形および地質

対象区間において、山麓地が大部分を占めており、石田川周辺部では扇状地性低地が形成されている。地質の状況は、変成岩(片岩類)からなっている。

■就業者数(人):H12 国勢調査

	人数	比率
全就業者数	3,945	100.0%
第1次産業就業者数	441	11.2%
第2次産業就業者数	1,371	34.8%
第3次産業就業者数	2,133	54.1%

■主な観光地別観光客数:H13 島根県統計書



■農家、事務所、商店数:H13 島根県統計書

農家数	685戸
事務所数	26所
商店数	126店

■総生産額(百万円):H13 島根県統計書

農業	452
工業	8,556
商業	5,703

■観光・レクリエーション施設

三隅公園／太平桜／田ノ浦公園／龍雲時公園
梅林公園／アクアみすみ／石正(せきしょう)美術館

■特産品

石州和紙／メロン／西条柿

■イベント

三隅のつつじ祭(5月3日～5日)、三隅の石見神楽舞(6月)みすみフェスティバル(11月)

■第4次三隅町総合振興計画

[将来の都市像]

豊かな自然と修景を施した美しいまち、産業と伝統文化を守り育てながら、老若男女が誇りを持って共に生き生きと暮らせるまち。

[本計画の目標]

水澄みの里リバースプラン ～和紙と健康・福祉のまちづくり～

[戦略プロジェクト]

- ・ 「和紙の郷」づくり
- ・ 特産品づくりと三隅方式中山間地域対策の推進
- ・ 温排水利用施設の建設
- ・ 田舎型保養地と温泉の開発利用
- ・ 健康・福祉の郷づくり
- ・ 協調分散型の拠点づくり
- ・ 生涯学習の推進
- ・ 国際交流の推進

[基本計画]

- ・ 発展のための土台の創造
- ・ ゆとりと快適な暮らしの創造
- ・ 活力と豊かさの創造
- ・ 健やかな暮らしの創造
- ・ うるおいと生きがいの創造
- ・ やる気と個性の創造

■御部(おんべ)ダム

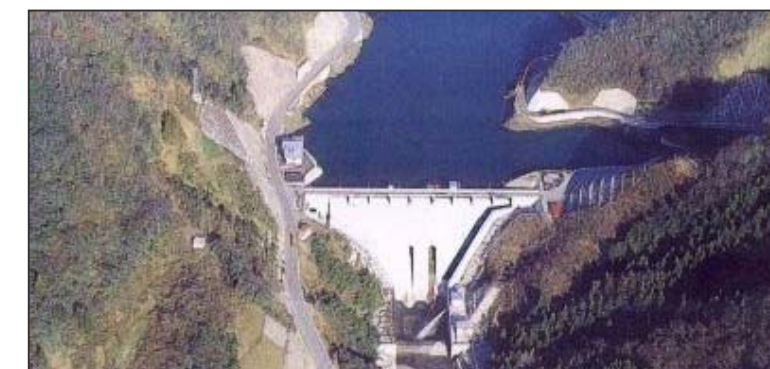
三隅川治水計画の中核をなし洪水の軽減のほか、三隅川の流水の正常な機能の維持を図っている。また、御部ダム周辺公園として道猿坊公園(どうえんぼうこうえん)が整備されている。

[所在地]: 島根県那賀郡三隅町上古和

[河川]: 二級河川三隅川水系三隅川

[総貯水容量]: 16800 千 m³

[着手/竣工]: 1973/1990



■三隅発電所

三隅発電所は、海外から直送される石炭を燃料とする火力発電所であり、三隅発電所の敷地は約69万平方メートルで東京ドームの約15倍の広さがある。そのうち25%以上を緑地整備している。

- 1号機の発電出力100万kW(キロワット)は、日本で一番大きな発電設備のひとつ。
- ボイラ蒸気の温度を上げ、タービンの羽根を長くし、従来発電設備より約2%の熱効率向上を実現している。
- 最新の環境保全対策を備えたクリーンコール・テクノロジーで運営する発電所。

[所在地]: 島根県那賀郡三隅町大字岡見

[出力]: 100万kW

[運転開始]: 平成10年6月

[敷地面積]: 約69万m²

[使用燃料]: 石炭

